



コメドールだより

CIEN FUEGOS 編

【はじめに】

サンティアゴには大小様々な地区があります。その中でも「Cien fuegos(シエン・フエゴス)地区」はサンティアゴ最大とされています。

今回はサンティアゴ最大の地区にあるコメドールを紹介します。大きな地区なので、場所によっては都会的だったり、ちょっと怖い雰囲気があったり…と様々な顔がある地区です。

このコメドールは 50 人以上の子ども達を通う規模が大きい施設です。また、施設内には「Inaipi (イナイピイ)」という家庭訪問型の国立児童福祉機関の支部があり、コメドールと協力しながら活動しています。

【活動の際に気をつける点】

① 絵の具を使う時: 当日水が出るかどうかの確認。地域によっては日常的に断水があります。(シエン・フエゴスは金曜日の断水が多いです…。)

② 小さい材料を使う時: 全体的に、口に何か(ストロー、紙等)を入れて噛む子が多いので、モグモグし始めたら口の中を必ずチェック! します。

【隊員紹介】

2016 年度 2 次隊
長江 茉莉子
(ながえ まりこ)

職種: 青少年活動

※サンティアゴも日々猛暑の為、水分補給が必須です。

【大勢の子ども達をまとめる先生】

シエン・フエゴスの保育者は、コメドール唯一の男性スタッフです。普段は明るくて優しく、子ども達が悪い事をしたら叱る、教育熱心な先生です。



【写真①ホセ先生】子どもが作った作品を見てニコリ(^^)

【クリスチャンならではの図画工作教室】

国民の90%がクリスチャンというドミニカ共和国。コメドールは、カトリック教会直轄のNGO団体が運営している為、子ども達もカトリック教会の祭事に参加します。例えば、10月は「ロザリオの月」と呼ばれ、ロザリオを祀るミサを行います。※ロザリオとは数珠上の輪に十字架が付いており、カトリック教会でお祈りの時に用います。



【写真②ロザリオ】ロウソクでロザリオの形を作り、ミサを行う教会もあります。

そして9月のある日、ホセ先生からお願いが…「マリ、子ども達が来月ロザリオが必要だから、子ども達に作り方を教えてほしい。」

話を聞いたところ、ビーズなどを使った本格的なロザリオではなく、図画工作を通して、ロザリオがどのように出来ているかを学ぶ事を目的としている様子。

その為、子ども達に馴染みがあり、且つ自宅でも作れる（地元でも手に入る）ような材料で…とのお願いが。こうして、初のロザリオ作りの教室を開催する事になりました。



【写真③ロザリオ作りスタート】5才から11才の子ども達が参加。

まずは、材料から工夫しました。ビーズの代わりに小さく切ったストローを使用。色が選べるように数種類のストローを用意しました。また、紐は毛糸を使用し、十字架は段ボールを基にフォアミ（ラメが付いているフェルト状の素材）を貼り付けました。全部地元の地域で手に入る材料にしました。



【写真④真剣に数える子ども達】数を数える練習にもなります。

ロザリオ作りで重要なのは、「珠の数」です。ロザリオは祈りの唱え方と関係があり、珠の数が決められています。ロザリオには大珠が6個、小珠が53個あります。小珠10個+大珠1個で一つのパーツ（一連）が構成されています。

その為、子ども達も真剣に数を数えます。50までの数を知らない子は、10までの数を数えて作ります。先生も私も一緒に数えるお手伝い。

「算数の勉強にもなるんだ。」と喜ぶ先生と頭を抱える子ども達(;'▽')



【写真⑤お手伝い】年長の子ども達が一緒に数えながら年少の子のお手伝いをしてくれました。

【¡Mira mira!】(見てみて！)

初めてのロザリオ作りでしたが、頑張って自分で作る子ども達。色とりどりの綺麗なロザリオができました。「名前を書かないと…」と思った矢先、「僕（私）、自分のロザリオ分かるよ！」と言って、沢山置かれたロザリオから自分のロザリオを見つける子ども達。自分で作ったからこそ分かる個性がロザリオにあるんだと思いました。

出来上がったロザリオを真っ先にホセ先生に見せる子ども達。そこには自信に満ち溢れた子ども達の笑顔がありました。初めはクリスチャンではない私がロザリオ作りを教えるというプレッシャーがありましたが、同僚からロザリオや祭事の由来を学び、理解を深めた事で無事作る事ができました。

ロザリオ作りを通して、改めて異文化理解の大切さを学びました。



【写真⑥ロザリオ完成】



【写真⑦見てみて！】自分で作ったロザリオを身につける子ども達